

第3回愛媛県県立学校振興計画検討委員会地域協議会の開催結果（概要）

- 1 日程等 令和3年6月8日(火)～7月9日(金) 県内8地区で開催
- 2 出席者等 ○地域協議会会員 155人（代理出席を含む）
○教育委員会事務局 9人（副教育長、指導部長、魅力化推進監 他）
- 3 次第 (1) 開会（指導部長挨拶、スケジュール説明）
(2) 議事（第2回地域協議会報告、振興計画策定の指針について、意見交換）
(3) 閉会

4 開催結果

○ 会員による意見交換（主な発言内容）

四国中央	○いずれは <u>地元に戻ってくる子どもを育てる機運を高める</u> ことが大切。 ○学校の魅力化を図るため、 <u>県からの一層の支援があるとよい</u> 。 ○大学卒業後も地元に戻ってくる <u>キャリア教育の充実を望む</u> 。 ○市外流出に拍車がかかっているため、 <u>適正倍率の設定は必要</u> 。
新居浜	○ <u>新居浜地区に中高一貫教育校を設置</u> し、進学の手掛かりとすることは可能か。 ○ <u>普通系学科の魅力化</u> の方策について、 <u>学校の声を聞く</u> ことが必要。 ○全国募集実施校のPRをよく見る。 <u>アピール力の強化が重要</u> 。 ○ <u>工業高校に専攻科を設けることを検討</u> してほしい。
西条	○現状の学校の統合でなく、 <u>学校を新設すれば住民の反対感情は薄まる</u> 。 ○定時制、通信制を含めて、 <u>多様な学びができる体制づくり</u> を。 ○ <u>不登校生徒の進学先</u> について、 <u>昼間定時制があればよい</u> と思う。 ○マイナス面を見ると致し方ないが、 <u>今の状況を変えるには勇気がいる</u> 。
今治 越智	○ <u>今治市内島しょ部の2校を統合</u> することは、 <u>地元としては容認することは難しい</u> 。 ○ <u>離島の特例措置の継続</u> を。少子化の中、 <u>31人以上の達成は極めて難しい</u> 。 ○ <u>陸地部の学校の定員を減らせば、島しょ部に通う生徒が増える</u> のでは。 ○島しょ部に職業学科を導入するなど、 <u>地元に残る選択肢</u> を。
松山 伊予 上浮穴	○ <u>1.0倍を超える適正倍率は現実性がない</u> 。再考を要するのでは。 ○再編計画の策定に当たっては、 <u>遠隔教育の導入等を考慮</u> すべきではないか。 ○ <u>高校卒業後の進路を見越した学校づくり</u> が重要。 ○ <u>職業系学科校の統合は、効率的ではあるが通学時間が問題になる</u> 。 ○ <u>普通科でも魅力化</u> を考えていけば、 <u>生徒の選択肢が増える</u> 。
大洲 喜多	○ <u>農業を基幹とする地域であり、農業高校は2学級でも残してほしい</u> 。 ○ <u>地域に子どもを残すため、地域を題材とした学習</u> を行ってほしい。 ○ <u>子どもが地域外の学校を選択する理由を知る</u> 必要がある。 ○ <u>小規模校で生き生きとしている生徒もいる</u> ので、小規模校を残してほしい。
八西 西予	○ <u>今後を見据えた、地域における魅力がある高校づくりを進めてほしい</u> 。 ○ <u>適正倍率を設定する理由</u> は何か。 ○ <u>通学区域</u> について、 <u>通学時間も考慮</u> してほしい。 ○ <u>魅力化推進校のハードルを弾力的に下げる</u> などの考えはないか。 ○周囲から生徒を呼ぶため、 <u>地元ができることを考える場を持つ</u> ことが重要。
宇和島 南宇和	○ <u>宇南中等は定員割れ</u> が続き、バランスが欠けている。 <u>適正な定員の設定</u> を。 ○ <u>生徒が通える範囲に、行きたい学校・学科・コースがあるとよい</u> 。 ○ <u>移住対策等</u> と併せて、 <u>全国募集制度の充実</u> を考えていく必要がある。 ○子どもがなりたい職業が変わってきている。 <u>地域性のある学科の設置</u> を。

(参考)

○ 今後の予定

- 8月 第4回計画検討委員会の開催
- 9月～ 第4回地域協議会の開催（県内8地区）
- 10月 第5回計画検討委員会の開催
- 11月～ 第5回地域協議会の開催（県内8地区）